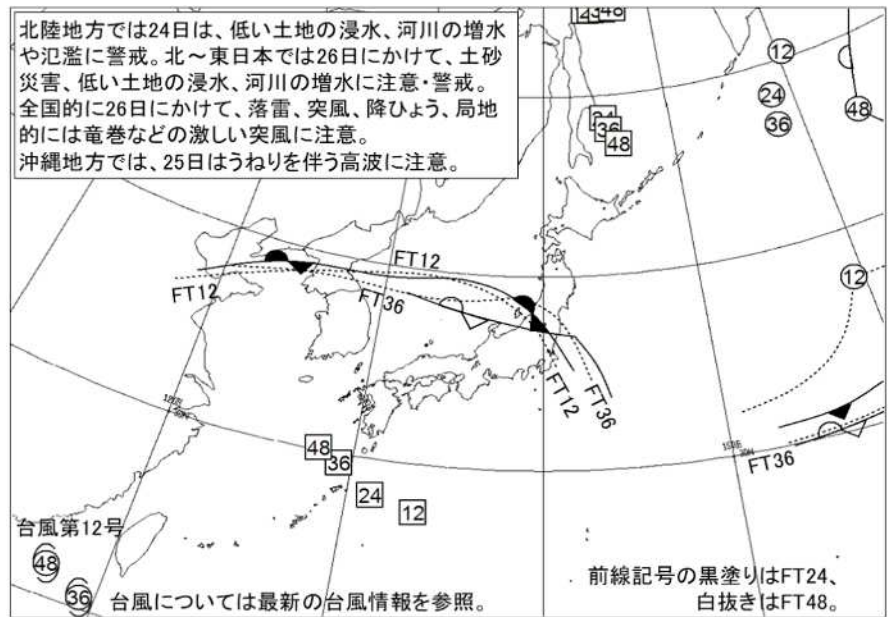


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5880m付近の強風軸に対応した前線が、華北から朝鮮半島や北～東日本付近を通して関東の東にのびている。
- ② 500hPa 5880m以上の上層の高気圧に対応する地上の高気圧が、日本の南にあってほとんど停滞。東～西日本と南西諸島は、高気圧圏内で850hPa 21℃前後の下層暖気に覆われており、広い範囲で晴れている。一方、沖縄近海では、高気圧後面の暖湿気が流入し、雷を伴い激しい雨を解析。
- ③ 24日3時に発生した台風第12号が、フィリピンの東を西進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、25日にかけて北～東日本にほとんど停滞し、26日は前線上の関東の東に低気圧が発生して東南東進。また、上層の正渦度極大域が北～東日本に断続的に流入し、上中層の気温が低下。前線に向かう下層暖湿気、上空の気温低下、日中の昇温の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。前線がほとんど停滞するため、同じような所で強雨が断続して総雨量が多くなる可能性があることに留意。北陸地方では24日は、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。北～東日本では26日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項②の上層の高気圧は、25～26日は東シナ海に中心を移しながら、引き続き東～西日本と南西諸島を覆う。2項①の前線の南側では、これまでの熱の蓄積で下層気温が高いことに加え、高気圧の北縁の西よりの風が東～西日本の陸上で吹いて熱を輸送すること、海風が内陸に入り込みにくいことなどが複合的に影響し、日中は気温がかなり上昇する。東～西日本を中心に猛暑日となる地点が多くなり、酷暑日となる所もある。熱中症などの健康管理に一層の注意が必要。また、地上の昇温や高気圧の縁を回る下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。東～西日本と南西諸島では26日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 1項③の台風は、25日にかけてフィリピンの東から南シナ海に進む。台風を波源とするうねりの影響で、波が高くなる所がある。沖縄地方では25日は高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の前線や低気圧の予想は不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量 (06時からの24時間) : 北陸100mm。② 波浪 (明日まで) : 沖縄3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。